2026 年３月 25 日

各　位

情報システム部

生成 AI の利用に関する指針及び留意事項

近年，大学業務における AI 技術の活用は急速に広がりつつあります。AI は，事務処理の効率化や学生支援の充実などに大きく寄与する一方で，情報管理や倫理面への配慮を欠いた利用は，個人情報の漏えいや著作権侵害等，組織として重大なリスクを招く可能性があります。

本指針は，本学において AI を安全かつ適切に活用するための基本的な考え方及び留意事項を示すものです。AI の利点を最大限に生かしつつ，大学としての信頼性と社会的責任を確保するための指針として活用してください。

１　目的

本指針は，本学における教育・研究・業務において生成 AI を適切かつ安全に活用するための基本的な考え方及び留意事項を示すことを目的とします。

２　基本方針

- 生成 AI は「考えることを支援するツール」であり，教育・研究・業務の質及び効率を高めるための補助的なツールとして活用する。
- 生成 AI の出力を無批判に受け入れるのではなく，利用者自身が内容の妥当性，正確性及び限界を判断する。
- 個人情報，機密情報及び研究上の未公開情報等の保護を最優先とする。
- 著作権，研究倫理，学修規範等の関係法令及び学内規程を遵守する。

３　対象範囲・利用環境

生成 AI は，入力した情報が外部で保存・処理されることにより，情報漏えい等のリスクを伴う場合があります。

本学では，職員が業務において文章生成 AI を利用する環境として，Microsoft 365 Copilot の利用を推奨します。生成 AI ツールの利用にあたっては，本学が正式に承認したツールを使用してください。

⑴　対象範囲

- 対象者：本学に所属する学生及び教職員
- 対象活動：教育，研究，業務その他本学の活動に関連する生成 AI の利用

⑵　利用推奨環境「Microsoft 365 Copilot／Copilot Chat」

本学はMicrosoft 365を契約しており，当該契約に基づき提供されるMicrosoft Copilot／Copilot Chatを，教育・研究・業務における生成AI利用の第一選択として推奨します。

- メールシステムID（***@mail.aichi-med-u.ac.jp）でサインインした場合に限り，商用向けデータ保護（EDP／DPA）が適用され，入力データはAIの再学習目的で利用されない設計となっている。この場合，利用時に取り扱うデータはMicrosoft社と本学との契約に基づき適切に保護された形で処理される。
- ただし，個人情報，要配慮個人情報及び高度な機密情報（患者情報，未公開研究データ等）を入力してよいことを無条件に保証するものではない。
- 実際の利用にあたっては，情報の機微性及び業務上の必要性を十分に検討すること。

⑶　その他の生成AIサービス（ChatGPT 等）

- ChatGPTを含む学外事業者が提供する生成AIサービスの利用を一律に禁止するものではない。
- 個人情報，機密情報，研究データ，学内限定情報等を入力してはならない。
- 各サービスの利用規約及びデータの取扱方針を理解した上で，自己の責任において利用すること。

4　利用上の留意事項

⑴　個人情報・機密情報の取扱い

以下の情報は，原則として生成AIに入力してはなりません。

- 学生・教職員・患者等の個人情報
- 医療情報，診療情報，要配慮個人情報
- 未公開の研究データ，研究計画書，審査資料
- 学内限定情報及び契約上守秘義務を負う情報

⑵　正確性・信頼性の確認

- 生成AIの出力は，必ずしも正確，最新または網羅的であるとは限らない。
- 生成AIは下調べやアイデア整理の補助として活用し，最終的な判断，記述及び意思決定は利用者自身が行うこと。
- 学術的内容については，一次資料や信頼できる複数の情報源により必ず確認すること。

⑶　著作権・引用

- 生成AIの出力をそのまま転載する行為は，著作権侵害や剽窃と判断される可能性がある。
- レポート，論文，報告書等については，各授業または研究指導における指示に従うこと。

5　教育・学修における利用

- 各学部・授業における生成 AI の利用可否及び範囲は，担当教員の指示に従うこと。
- 許可なく，生成 AI が出力した文章や成果物をレポートや課題として提出した場合，不正行為とみなされることがある。
- 一方で，構成案の検討，論点整理，自己学修の補助等，学修を深める目的での活用は有益であり，教育的配慮のもとでの活用が期待される。

6　研究における利用

- 研究背景の整理，英語表現の改善案の検討，プログラム作成補助等において，生成 AI は有効な支援ツールとなり得る。
- 研究データの解析結果や結論の妥当性について，生成 AI に判断を委ねてはならない。
- 学会発表や論文投稿にあたっては，各学会・出版社が定める生成 AI 利用方針を必ず確認すること。

7　業務における利用

- 文書構成案の作成，要点整理，業務改善に関するアイデア検討等において，生成 AI の活用を認める。
- 出力結果に基づく最終的な判断及び文責は，必ず教職員が負うものとする。

8　使用例

⑴　使ってよい例

- レポートや発表資料の構成案検討
- 用語の意味や背景知識の調査
- 学修内容の整理・要約（自己理解のため）
- 文書のたたき台作成，構成整理
- 会議資料の要点整理
- 業務改善や企画のアイデア出し

⑵　使ってはいけない例

- 生成 AI が作成した文章をそのままレポートや課題として提出すること
- 教員の許可なく，成果物作成を生成 AI に委ねること

⑶　注意が必要な例

- 判断や結論を生成 AI の出力のみで決定すること
- 出力結果を事実確認せずに外部へ共有すること

９　各部局の指針との関係

本指針は，大学全体に共通する原則を示すものです。各学部・研究科・部署が定める生成 AI 利用指針が本指針より厳格な場合は，当該指針を優先してください。

10　指針の見直し

生成 AI を取り巻く技術動向，法制度及び社会的要請は急速に変化していることから，本指針は必要に応じて随時見直しを行います。

Microsoft365 Copilot Chat 利用方法

1．Microsoft365 Copilot Chat とは？

Microsoft 365 Copilot Chat は、大学のメールアカウント（xxx@mail.aichi-med-u.ac.jp）で利用できる対話型 AI アシスタントです。Web ブラウザーやアプリから利用でき、チャットで質問や依頼を入力するだけで、資料の要約やアイデア出しなどをサポートします。

また、Microsoft 365 Copilot Chat は、Microsoft 365 に保存されているファイルやメールなどの情報を活用して、必要な情報の検索や整理を支援します。授業や研究、実習、学生生活におけるさまざまな作業を効率的に進めるための便利なツールです。

2．利用方法

＜Web ブラウザで利用する場合＞

(1) KINKAN から「メールシステム」をクリックします。

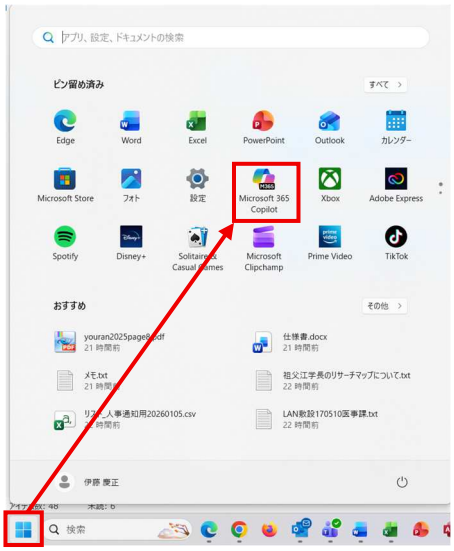
(2) 「メールシステム」の URL をクリックし，サインインします。

(3) サインイン後，左上をクリックし，「Microsoft 365 Copilot」を選択します。

(4) サインインは，「xxx@mail.aichi-med-u.ac.jp」で行います。

(5) 右上に マークが出ていれば OK です。

＜アプリで利用する場合＞



(1) Windows マークをクリックし，「Microsoft 365 Copilot」を選択します。

(2) サインインを「xxx@mail.aichi-med-u.ac.jp」で行います。もし他のアカウントでサインインしている場合は，「Sign out」をクリックしサインアウトし，「xxxxx@mail.aichi-med-u.ac.jp」でサインインします。

(3) 右上にマークが出ていれば OK です。

3．Microsoft365 Copilot Chat にうまく指示するコツ

Copilot はとても便利ですが，あいまいな指示よりも，目的や条件を具体的に伝えたほうが良い結果を得られます。「誰向けに」「どんな形で」「どれくらいの長さで」といった情報を加えると，精度が上がります。

＜指示のポイント＞

・Copilot に依頼するときは，次の 4 つを入れると効果的です。

No.	指示ポイント	例
1	目的：何のために？	「資料を要約するために」「学習内容を整理するために」
2	形式：どんな形で？	「箇条書きで」「表形式で」「3 つの案で」
3	条件：どんなレベル・トーンで？	「初心者にもわかりやすく」「専門用語を使わずに」
4	長さ：どれくらいの量？	「100 文字で」「A41 枚分で」「短く簡潔に」

・良い指示・悪い指示の比較

（✕）曖昧な指示　：「この内容を説明して」

（◎）具体的な指示：「内容を理解するために、この文章を箇条書きで、大学生でも分かる言葉を使って、3 つのポイントにまとめて」